

熱帯医学情報学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Kentaro Kato, Takashi Makiuchi, Xunjia Cheng, Hiroshi Tachibana : Comparison of hemolytic activity of the intermediate subunit of *Entamoeba histolytica* and *Entamoeba dispar* lectins (共著), PLoS ONE, 12 巻 7 号 e0181864 頁~, 2017 年 07 月

B 邦文

B-c

1. 入村達郎, 加藤健太郎, 佐藤佳代子, 伝田香里, 築地 信 : 感染と免疫 第 4 版(共訳), 株式会社東京化学同人, 2017 年 09 月

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	0	9	0	9

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
金子 聡・教授	日本疫学会評議員	日本疫学会
金子 聡・教授	日本熱帯医学会理事	日本熱帯医学会
加藤健太郎・助教	2016 年度 JICA 研修「家畜感染症上級専門家育成コース」講師 平成 29 年 3 月 23 日 熱帯医学ミュージアム	JICA
加藤健太郎・助教	長崎県立長崎東高等学校「東高スーパーグローバルハイスクール(SGH)」フィールドワーク講師	長崎県立長崎東高等学校
加藤健太郎・助教	Journal of Glycomics and Metabolism 編集委員	Open Access Pub

競争的資金獲得状況 (共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
金子 聡・教授	日本学術振興会	代表	アフリカにおける地域特性を考慮した乳幼児の健康改善モデル構築に関する疫学研究
藤井仁人・助教	日本学術振興会	代表	デング熱の実態把握と環境負荷のない地域対策の無作為化比較試験による評価
金子 聡・教授	日本学術振興会	分担	デング熱の実態把握と環境負荷のない地域対策の無作為化比較試験による評価
金子 聡・教授	文部科学省	代表	アフリカの NTD 対策に資する大陸的監視網に向けたイノベティブ・ネットワークの構築：一括・同時診断技術を基軸とした展開
金子 聡・教授	日本学術振興会	代表	二国間交流事業「ケニア (NACOSTI) との共同研究
加藤健太郎・助教	日本学術振興会	代表	腸管寄生原虫の病原性発現機構の解明
加藤健太郎・助教	長崎大学熱帯医学研究所	分担	原生生物カプサスポラによる <i>Schistosoma</i> の中間宿主への寄生抑制
加藤健太郎・助教	長崎大学熱帯医学研究所	分担	<i>Entamoeba nuttalli</i> における表面レクチンサブユニット (Igl) の解析